

高山西ロータリークラブ 創立1966年1月15日

例会報告 Rotary



第2780回例会
令和7年5月30日

- 例会日 毎週金曜日 12:30~13:30
- 会長 米澤 久二
- 例会場 高山市花里町3-33-3 TEL 34-3988
- 幹事 田中 晶洋
- 大垣共立銀行高山支店 4F
- 会報委員長 阪下 六代

ロータリーの
マジック
社会奉仕委員会

<会長の時間>

アメリカと日本の寄付については大きな差があります。下表のように一人当たり平均で10倍程度の開きがあります。アメリカでは基督教の影響が強く、「富める者が貧しい者を助けるべき」という価値観があり、教会等が慈善活動の中心的な役割を果たしています。アメリカでは寄付が社会貢献の一環として広く認識されており、富裕層等の寄付が活発で、ビル・ゲイツ氏などの企業家等が多額を寄付しています。日本では寄付と言う文化が熟していませんが最近はいくつかの注目すべき変化が出てきたと指摘されています。まずは寄付額が大きく増加しているということです。2011年の東日本大震災以降、寄付額が増加し、2011年の個人の寄付金総額は1兆円を超えたといわれています。2024年の能登半島地震でも多額の寄付金や義援金が集まりました。寄付は他人に対する共感と言う側面があると思います。被災者等に対する様々な思いから寄付額が伸びたと思います。次にクラウドファンディングの普及があります。国立科学博物館のクラウドファンディングが初日に目標の1億円を突破し最終的に9億円超を達成するなど、オンライン寄付の活用が広がっています。インターネットによる寄付活動が活発化しており、若者の参加が増えていると言われています。日本の寄付文化はいわば発展の途上にあり、最近ではデジタル技術が寄付の拡大をもたらしています。ご承知のようにロータリークラブでも財団寄付金や米山奨学寄付金があります。あるロータリアンのことばですが「寄付はお金持ちがするものではなく、『心(こころ)』有るものができるものです」まさに心に響く言葉だと思います。寄付は他人に対する共感が第一歩と考えます。



<オープン例会ご参加>

高山市教育委員会

教育長 見山 政克 様

ご参加ありがとうございました。



<幹事報告>

◎国際ロータリーガバナー事務所より

「大船渡山林火災被害に対する支援金」
について

総額 75,981,200 円を

4月28日送金・掲載記事



◎次期ガバナー補佐 岩本 正樹様より

「濃飛グループ次期会長・幹事懇談会」出席の御礼

◎次年度活動計画書作成に伴い会員の皆様にお願ひ

名簿を回覧致しますのでご確認願ひます。

お間違いないようでしたら左端欄にチェックを、訂正箇所
ございましたらご記入を願ひ致します。

<受贈誌>

・高山・デンバー友好協会事務局長より

「第18次デンバー高校生訪問団ウェルカムパーティーの
開催について」ご案内

・飛騨高山国際協会より

彬子女王殿下特別講演会「英国で学ぶ日本文化」 ご案内

<出席報告>

●日米の個人寄付額の比較

	日本	アメリカ
寄付額	1兆2126億円	34兆5948億円
名目GDP比	0.23%	1.55%
人口一人当たりの寄付額	9654円	10万3330円

※「寄付白書2021年」(日本ファンドレイジング協会)のデータを基に作成
https://jfra.jp/pdf/gj2020_infographic.pdf

出席	Make-Up	出席者数	会員数	出席率
28名	-	28名	38名	80.00%

高山西ロータリークラブ 創立1966年1月15日

例会報告 Rotary



第2780回例会
令和7年5月30日

- 例会日 毎週金曜日 12:30~13:30
- 例会場 高山市花里町3-33-3 TEL 34-3988
大垣共立銀行高山支店 4F
- 会長 米澤 久二
- 幹事 田中 晶洋
- 会報委員長 阪下 六代

ロータリーの
マジック
社会奉仕委員会

<本日のプログラム>

社会奉仕委員会 委員長 堀 幸一郎さん



出合い塾は、不登校児童生徒のための教育支援センターであり、子どもたちの心の成長と自己実現を支援する独自の取り組みを展開しています。

村田真一氏の卓話を通じて、その活動の深さと意義を紹介いたします。

1. 施設の概要と日常

出合い塾は、毎日午前9時40分から午後1時40分まで活動しています。一日の流れは以下になっています

- ・朝のウォーキング（四季折々の自然を感じながら）
- ・学習時間
(45分×2コマ、個々の学習進度に応じた柔軟な対応)
- ・スポーツや畑作業
- ・自由時間
(ゲーム、絵画、トンチャー、しりとりゲームなど)

2. スタッフ構成と支援体制

スタッフは多様な背景を持つメンバーで構成されています

- ・教育研究所所長（市教育委員会学校教育課長）
- ・教育支援員
- ・教育相談員5名
- ・出合い塾友の会（退職校長や地域の方々、約130名）

特に教育相談員は、「先生」ではなく「お姉さん」「お父さん・お母さん」のような存在として、子どもたちと信頼関係を築いています。

3. 支援の特徴と革新的なアプローチ

出合い塾の支援は、従来の枠組みを超えた柔軟性が特徴です

- ・在籍校に籍を置きながら通所可能
- ・個々の子どもの状況に応じた対応（部分的な利用も可能）
- ・アウトリーチ型支援（地域への出張支援）

4. 他の支援施設との違い

にじ色教室（別の不登校支援施設）との比較において、出合い塾は

- ・心の充実に重点を置く
- ・在籍校との併用が柔軟（にじ色教室は宮中学校の分教室）
- ・弁当持参制

5. 最新の引きこもり支援指針

厚生労働省は支援の方向性を大きく転換しました

- ・「社会参加」から「自己肯定」へ
- ・本人の気持ちを最優先
- ・期間にとらわれない伴走型支援
- ・家族も含めた包括的なサポート

6. 卒塾生の活躍

具体的な成功事例として

- ・東麻衣さん（通信制高校3年生）：
自作バッジの販売と収益の寄付
- ・水口茂さん：
定時制高校で生活体験発表会の県民会議会長賞受賞

7. 「居場所」の哲学

村田氏は「居場所」について独自の見解を示しています

- ・大人が決めるものではなく、子供自身が選ぶ場所
- ・自分と向き合う勇気を提供する空間
- ・一人ひとりの心に寄り添う支援

8. 深い人間理解への洞察

サン＝テグジュペリの「星の王子様」、小澤征爾、道元禅師の言葉を引用し、目に見えないものへの理解の重要性を強調しました。

- ・「心で見なければ、本当のことはわからない」
- ・表面的な事実ではなく、内面の本質を理解することの大切さ

結論として、出合い塾は単なる学習支援施設ではなく、子どもたちの心の成長と自己実現を支援する、温かで革新的な場所であることが明確に示されました。

多様性を尊重し、一人ひとりの可能性を信じる。それが出合い塾の真髄であり、現代の教育支援が目指すべき理想の姿と言えるのではないのでしょうか。

例会報告

であい塾 村田 真一様



【経歴】

1961年 昭和36年 高山市生まれ
1974年 昭和49年 高山市立東小学校卒業
1977年 昭和52年 高山市立日枝中学校卒業
1980年 昭和55年 岐阜県立斐太高等学校卒業
1984年 昭和59年 国立静岡大学教育学部卒業
1987年 昭和62年 可児市立桜ヶ丘小学校
1990年 平成2年 高山市立東小学校卒業
1995年 平成7年 笠松町立笠松小学校
1998年 平成10年 高山市立日枝中学校
2001年 平成13年 高山市立中山中学校
2005年 平成17年 国立乗鞍青年の家・国立乗鞍青少年交流の家
2008年 平成20年 郡上市立明宝小学校（教頭）
2011年 平成23年 下呂市立尾崎小学校（教頭）
2014年 平成26年 高山市立新宮小学校（教頭）
2016年 平成28年 下呂市立下原小学校（校長）
2019年 令和1年 高山市立江名子小学校（校長）
2022年 令和4年 高山市教育研究所であい塾（教育相談員）

みなさんこんにちは。であい塾の村田です。本日はお声がけいただきありがとうございます。本日はどうぞ宜しくお願いします。であい塾では毎朝20分程度のウォーキングに出かけますが、その時の四季折々の風景です。山と川はふるさとの原風景ですが、位山と宮川を中心とする豊かな自然環境の中で過ごしています。外へ出て太陽の光を浴びることや、少しでも体を動かすことの大切さを実感するひとときです。

それでは、であい塾について、簡単に少しだけ紹介させていただきます。

1日の流れについてはかみつまみながら説明させていただきます。

であい塾は9時に開塾します。子どもたちは、教育委員会のワンボックス型スクールバスで登塾するか保護者等による送迎で登塾します。

10時5分からの朝の会で日程を確認後、ウォーキングに出かけます。

10時35分から11時20分まで45分間の学習をした後、11時25分から12時まで2時間目となります。宮中の体育館をお借りしてスポーツをしたり畑作業をしたりします。

お昼は弁当です。であい塾では給食はありません。

簡単な掃除の後、12時55分から3時間目となります。卓上ゲームをしたり絵を描いたりするなど自由に過ごします。

その後、帰りの会をして13時50分にスクールバスで帰ります。であい塾に関わる主なスタッフはここに示す通りです。

- 1 教育研究所所長
- 2 教育研究所所長代理
- 3 教育支援係長

- 4 教育支援員
- 5 教育相談員
- 6 であい塾友の会

常駐する5名の教育相談員です。

教員免許を所持していますが、教えるとか指導するという色合いはうすく、一人一人の子どもに寄り添いながら明るくにこやかに子どもたちと共に過ごしています。はじめは口数の少ない子どもも次第に本音でいろいろ話すようになり、笑顔でゲームを楽しんだりするようになります。

今年度4月、教育支援センターが小中学生の保護者に配布したプリントによると

であい塾は

・不登校児童生徒の「居場所」となり、気持ちの安定を図る施設です。

・教育相談員が、学習・生活の支援を行います。

・支所地域での「移動であい塾」も展開しています。

・「であい塾友の会」による支援が継続されています。

と説明されています。

にじ色は

・社会的自立に向けて、中学校の学びを保障する施設です。

・学びの多様化教室という宮中学校の分教室です。

・特別なカリキュラムによる「個に応じた教育」を進めています。

と説明されています。

私が感じているであい塾とにじ色の大きな違いは次の3点です。

・であい塾は「気持ちの安定」、にじ色は「学びの保障」を主な目的にしていること

・であい塾は「現在在籍している学校」から通いますが、にじ色は「宮中学校へ転入」しなければ

ならないこと。

・昼食について、であい塾は「弁当」で、にじ色は「給食」だということ。

堀委員長様と打ち合わせをした際に、ひきこもり等の福祉的な内容も社会奉仕委員会の活動に含まれているということでしたので、5月8日の記事を紹介させていただきます。

以前にも「安心してひきこまれる環境が大切」という記事を目にとめたことがあります。

不登校の子どもに対しても「伴走型の支援」が必要だと強く感じています。卒塾生の中には自分のよさや特技を発揮して活躍している子がおり嬉しく思います。私の子ども時代は、指示通りみんなと一緒に取り組むことがよいことでしたが、今は多様性が尊重され、みんなと違うことの価値が高まってきています。多様な自己実現の仕方を受け入れる力量が私たち大人に求められているのだなあとしみじみ感じるこの頃です。最後に「居場所」と「個と向き合う」ということについて、個人的な思いをお伝えし締めくくりたいと思います。当たり前のことばかりで今さらという感もありますが、4年間、であい塾に勤めさせていただいて整理してきた思いですので少しだけお時間をください。まず、「居場所」というのは、親や先生が「ここがあなたの居場所ですよ。」と納得させるものではなく、子ども自身が「ここがいいなあ」と感じるものです。逃げ場ではなく、自分のタイミングで一歩を踏み出すときがくるまで自分と向き合う勇気を提供する場と受け止めるとスッキリします。そして「居場所」には受け止めたり寄り添ったりする人がいなければなりません。次に「個と向き合う」ということは、全体ではなく一人一人と向き合うことです。一人一人と向き合うとは一人一人の心と向き合うということです。心と向き合うとは目に見えないものと向き合うことです。目に見えないものは本当に大切なものです。

例会報告

★1日の生活の流れ

- 9:00 開会
- 10:00 であい塾バス到着
- 10:05 始業式
- 10:10 クラウドミーティング
- 10:35～ 第1講(学習)
- 11:25～ 第2講(学習)

12:00～ 昼食(お弁当)

12:30～ 休憩

13:00～ 特別講座

13:40～ 第3講(自由活動)

14:00～ 第4講(自由活動)

15:00～ であい塾バス出発

15:15～ 閉会

であい塾では、この流れに沿って子ども一人一人にあった学習環境をえています。また、地域の力を活用しながら、村スタッフ、村外活動、村会員の、調達の体制を組んで、人と関わる楽しさを味わっています。

地域連帯相談会
同じ塾19名で、16名保護者の皆様の指導・相談も活用しています。

高松奨学会
高等学校に進学していただき、学習や生活のことについて相談を随時受けます。

学習室
個別の先生、個別学習室、個別指導

移動であい塾
～いろいろな場所で開設～
高松市や宇治市などの各自治体で、地域の協力・連携により実施

であい塾7フロアマップ

早稲生
・高山市の全日通校
・定時制高校、通信制高校
・岐阜市や愛知県内各所の通信制高校
・遠征サポート施設
・課題(市外、市外、海外)

早稲生、保護者の声

保護者
・我が子は、であい塾で頑張っている姿を見て、安心感を感じています。
・子どもが頑張っている姿を見て、私も頑張るべきなのだと、やる気になりました。

早稲生
・であい塾で通じたことばかりで、人並み以上に頑張る、学ぶことができてきました。
・であい塾で通じたことばかりで、人並み以上に頑張る、学ぶことができてきました。

・勉強から逃げたことがありませんが、であい塾で頑張ることができるようになりました。

★その他のサポート

- 個別対応
・自分から話したい時に、先生が話を聞きます。
・自分で決めたことについてコミュニケーションをとります。
・子どもの成長を応援し、でも無理強いはしません。
- 個別サポート
・であい塾-学校の間の連絡し、学習の進捗を確認します。
・個別指導や個別の学習方法を、指導員がサポートします。
・家庭での学習環境を整えるためのアドバイスや、学習環境を整えるサポートを行います。
- 移動であい塾
・家庭での学習環境を整えるためのアドバイスや、学習環境を整えるサポートを行います。
・家庭での学習環境を整えるためのアドバイスや、学習環境を整えるサポートを行います。
- 保護者相談会
・保護者の方々に「個別」相談、個別相談員とのやり取りや個別相談を行います。
- 個別相談会
・個別に相談している個別相談員がサポートを行います。
・高山市や宇治市などの各自治体で、地域の協力・連携により実施

＜ニコニコボックス＞

●米澤 久二さん・田中 晶洋さん

昨日の地震は高山が震源地で久しぶりに地震の怖さを感じました。皆さんの周りで被害はなかったでしょうか。本日はであい塾塾長の村田 真一様にお越しいただきました。心より歓迎いたします。卓話を楽しみにしております。又 オープン参加の見山 政克様 ようこそお越しくださいました。

●門前 庄次郎さん

村田先生 大変ご無沙汰しております。本日はお忙しい中、お越しいただきありがとうございます。卓話を楽しみにしております。よろしくお願ひいたします。

であい塾 ⑦【居場所とは～ 個と向き合うとは～】

- 居場所と感ずるかどうかは本人です。
- 居場所は逃げ場ではありません。
- 居場所には受け止める人がいなければなりません。
- 個と向き合うとは全体ではなく一人一人と向き合うことです。
- 一人一人と向き合うとは一人一人の心と向き合うことです。
- 心と向き合うとは目に見えないものと向き合うことです。
- 目に見えないものとは本当に大切なものです。

●岡田 賛三さん・内田 幸洋さん・斎藤 章さん 古橋 直彦さん・田中 武さん・遠藤 隆浩さん 下屋 勝比古さん・大村 貴之さん・榎坂 純一さん 高井 道子さん・平 康裕さん・熊谷 高志さん 村口 拓也さん

大の里が第75代横綱に昇進しました。初土俵から13場所、新入幕から9場所での横綱昇進は最も早い記録で、師匠の二所ノ関親方(稀勢の里)以来8年振りの日本人横綱です。また、学生出身の力士が横綱に昇進するのは、同郷の輪島以来二人目です。二所ノ関親方は「まだまだ成長途中、まだまだ強くなる」と期待されています。口上で述べたように「唯一無二の横綱」になって欲しいと思います。

